

Ⅳ 市民会館・公民館の状況

1 市民会館・公民館概要

会館は、基本的には多様な文化諸活動に対応しつつ（市民会館）教育機関としての公民館の機能を果たしていく施設として、昭和52年6月に開館した。

敷地面積 4,937.07 m^2 建設延床面積 6,771.253 m^2

鉄筋コンクリート造り、地下1階、地上3階の構造

その施設、設備、職員、機能を通じ

- (1) 市民の出あいの場（ひろば）
- (2) 集団活動のよりどころ
- (3) 人間（市民）としての向上の場（市民の大学）
- (4) 芸術、文化、娯楽の鑑賞と創造の場（劇場、音楽堂）

の役割を果たしている。

また、武蔵野台地区に、社会教育活動の拠点として、地域のさまざまな文化創造の場として公民館分館・松林会館が、昭和54年5月に開館した。

敷地面積 1,104.98 m^2 建設延床面積 564.3 m^2

鉄筋コンクリート造り、2階の構造

2 市民会館・公民館利用状況

利用件数

施設名		月別 区分		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3			合 計		
				有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数
市民会館	大ホール	23	0	23	22	0	22	18	0	18	27	0	27	7	0	7	40	0	40	34	0	34	42	0	42	20	0	20	15	0	15	27	0	27	34	0	34	309	0	309		
	小ホール	17	0	17	16	0	16	18	0	18	36	0	36	33	0	33	19	0	19	17	0	17	32	0	32	21	0	21	6	0	6	15	0	15	28	0	28	258	0	258		
	リハーサル室	12	0	12	6	0	6	2	2	4	8	0	8	2	0	2	11	0	11	10	2	12	3	15	18	3	4	7	0	1	1	6	3	9	4	3	7	67	30	97		
	第1集会室	12	17	29	8	23	31	3	33	36	2	26	28	16	13	29	7	25	32	19	13	32	11	31	42	6	19	25	2	12	14	13	23	36	13	23	36	112	258	370		
	“ 2 ”	14	28	42	10	27	37	6	30	36	4	30	34	17	18	35	10	38	48	15	35	50	11	40	51	6	25	31	7	18	25	12	26	38	15	29	44	127	344	471		
	“ 3 ”	25	25	50	9	21	30	15	26	41	14	28	42	9	39	48	13	40	53	12	39	51	16	34	50	10	25	35	9	26	35	8	34	42	9	32	41	149	369	518		
	“ 4 ”	24	14	38	18	11	29	9	20	29	12	20	32	11	17	28	15	20	35	17	20	37	11	28	39	11	11	22	12	9	21	18	20	38	23	19	42	181	209	390		
	“ 5 ”	22	13	35	16	14	30	6	23	29	9	26	35	5	23	28	15	25	40	14	18	32	14	32	46	4	11	15	11	8	19	11	15	26	16	17	33	143	225	368		
	“ 6 ”	31	8	39	13	11	24	10	19	29	14	14	28	9	11	20	11	20	31	5	30	35	14	31	45	2	20	22	3	11	14	7	14	21	4	24	28	123	213	336		
	“ 7 ”	20	7	27	13	8	21	13	15	28	17	13	30	17	11	28	14	19	33	11	24	35	14	32	46	0	17	17	4	10	14	3	14	17	1	23	24	127	193	320		
	“ 8 ”	10	9	19	10	8	18	8	14	22	6	9	15	6	11	17	12	11	23	11	16	27	20	25	45	21	2	23	17	5	22	20	8	28	25	11	36	166	129	295		
	展示室	12	0	12	0	3	3	0	35	35	0	9	9	0	0	0	5	0	5	0	12	12	0	20	20	0	0	0	0	0	0	0	0	26	26	0	0	0	17	105	122	
	計	222	121	343	141	126	267	108	217	325	149	175	324	132	143	275	172	198	370	165	209	374	188	288	476	104	134	238	86	100	186	140	183	323	172	181	353	1779	2075	3854		
	公民館	調理室	0	8	8	0	5	5	0	17	17	0	14	14	0	4	4	0	7	7	1	27	28	0	23	23	0	15	15	3	14	17	2	14	16	2	12	14	8	160	168	
美術室		12	18	30	0	11	11	0	18	18	0	25	25	0	20	20	0	23	23	0	34	34	0	41	41	0	16	16	0	10	10	0	13	13	0	23	23	12	252	264		
音楽室		4	32	36	1	33	34	0	42	42	0	34	34	0	35	35	2	35	37	4	34	38	4	38	42	3	20	23	0	23	23	4	29	33	0	27	27	22	382	404		
視聴覚室		1	30	31	1	21	22	0	24	24	1	33	34	0	21	21	1	30	31	4	28	32	0	35	35	0	13	13	0	13	13	2	21	23	0	25	25	10	294	304		
児童室		4	19	23	2	14	16	0	26	26	0	19	19	0	4	4	0	28	28	4	26	30	4	31	35	4	19	23	4	17	21	4	21	25	1	22	23	27	246	273		
計		21	107	128	4	84	88	0	127	127	1	125	126	0	84	84	3	123	126	13	149	162	8	168	176	7	83	90	7	77	84	12	98	110	3	109	112	79	1334	1413		
合 計		243	228	471	145	210	355	108	344	452	150	300	450	132	227	359	175	321	496	178	358	536	196	456	652	111	217	328	93	177	270	152	281	433	175	290	465	1858	3409	5267		

松 林 会 館 利 用 状 況

		54年 5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10月		11月		12月		55年 1 月		2 月		3 月	
		件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員
大 集 会 室	主催	0	0	4	176	4	160	3	90	0	0	1	8	6	180	1	7	2	222	7	536	2	204
	一般	3	230	8	248	10	350	9	560	11	224	14	435	12	358	9	335	15	597	10	241	19	437
小 集 会 室	主催	1	16	4	54	5	70	4	55	0	0	4	80	2	40	0	0	1	33	15	229	19	292
	一般	4	74	5	46	10	114	10	112	5	64	15	133	9	114	2	22	1	20	10	164	10	183
和 室	主催	0	0	0	0	3	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般	6	121	7	157	10	239	6	95	7	160	10	135	17	328	13	209	11	223	16	320	11	209
学 習 室	主催	0	0	0	0	0	0	5	134	0	0	0	0	0	0	13	70	0	0	0	0	4	48
	一般	1	30	0	0	18	192	6	88	2	30	10	152	6	38	0	0	2	20	7	119	8	126
計	主催	1	16	8	230	12	270	12	279	0	0	5	88	8	220	14	77	3	255	22	765	25	544
	一般	14	455	20	451	48	895	31	855	25	478	49	855	44	838	24	566	29	860	43	844	48	955
総 計		15	471	28	681	60	1,165	43	1,134	25	478	54	943	52	1,058	38	643	32	1,115	65	1,609	73	1,499

昭和54年度 利用件数 485件

利用人員 1,079名

3 公民館運営審議会

審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議する諮問機関です。

本年度の審議会の会議内容は次のとおりです。

昭和54年4月24日(火)午後2時 立川市中央公民館

- ① 東京都公民館連絡協議会通常総会

昭和54年5月31日(木)午後1時30分 松林会館

- ① 松林分館事業開始及び職員の事務分担について
- ② 昭和54年度第1四半期(4・5・6月)開始事業について
- ③ 東京都公民館連絡協議会の報告
- ④ 公民館保育室の運営について
- ⑤ 会館専用掲示板設置について
- ⑥ 公民館資料室の貸出しについて

昭和54年7月30日(月)午後1時30分 公民館

- ① 会館第2四半期(7・8・9月)主催事業について
- ② 市民会館主催事業、今年度の計画について
- ③ 昭和54年度第1回都公連運審部会報告

昭和54年9月13日(木)午後1時30分 狛江市立中央公民館

- ① 第2回都公連委員部会

昭和54年10月12日(金)午後1時30分 立川市中央公民館

- ① 第3回都公連委員部会

昭和55年1月30日(水)午後4時 市民体育館

- ① 高橋委員紹介
- ② 熊川中央学供現況報告
- ③ 会館第4四半期(1・2・3月)主催事業について
- ④ 第18回東京都公民館大会について

昭和55年2月3日(日)午前9時 国立市第8小学校

- ① 第18回東京都公民館大会

4 奨励・援助

(1) 人的援助

各団体・グループ・サークル・個人の相談に応じ、必要な助言、指導、援助等に職員、講師、助言者等の派遣紹介を行った。年間延回数 175回

なお、公民館本館では、夜間における社会教育の活動が昼間より非常に多いことから、これらの市民活動の相談にのり、必要な援助をするため、館職員が1名残る体制をとっている。

(午後5時から10時まで)

(2) 教材・教具等の利用

社会教育備品貸出件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
16ミリ映写機	2	4	4	4	4	4	7	4	3		2	5	43
8ミリ映写機	2			1	1	3		1			1	2	11
8ミリカメラ					1			1					2
スライド映写機		1						2	3		1	2	9
O. H. P.			2	2			2		2			1	9
テーブルコーダー	1		1										2
暗幕		2	1		4	2			2		1	5	17
スクリーン		3	1	1	1	4	1	2	1			1	15
16ミリフィルム		2			3								5
スポットライト				3	2			4	2			1	12
テント				1	1								2
計	5	12	9	12	17	13	10	14	13	0	5	17	127

立川社会教育会館フィルム配送サービス取扱い

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	0	1	2	4	4	4	1	3	2	2	2	7	32
本数	0	2	2	6	11	10	3	6	5	5	4	16	70

月平均 2.7回
5.8本

(3) 事務援助

印刷事務等、連絡協議会的団体

(4) 会場借上

大ホール 1回(福生吹奏楽愛好会)

小ホール 4回(福生吹奏楽愛好会・市民コーラス・サークル“ななよん”・公民館利用者大会)

5 公民館主催事業

(1) 少年

わんぱく教室

小学1年生から3年生までを対象とし、近くの多摩川へ行き「草花あそび」を実施。そこでは自然に働きかける事の他に、グループ活動の中から友達へ働きかける事も学ぶ。

期 間 6月27日 午後2時から4時30分まで 全7回

参加者 35人×7回＝245人

月 日	テ ー マ	内 容
6. 27	オリエンテーション	班編成 各自の自己紹介
7. 4	草花あそび	草花あそび 各班の成果を持ち寄る。
7. 11	”	”
7. 18	”	”
7. 25	デイキャンプの打合せ	各班により計画・運営等の話し合い。
8. 1	デイキャンプ	キャンプの実践(多摩川)
8. 10	反省会	感想文の提出と反省会

たんけん教室

地図と磁石(コンパス)を使って実際に野山を歩き、身近な奥多摩の自然に接し、基礎的な自然の仕組みや働きを知る。

期 間 6月30日 午後2時から4時30分まで(山登りを除く) 全13回

参加者 18人×13回＝234人

月 日	テ - マ	内 容
5. 21	リーダー準備会	たんけん教室を開くにあたっての事前会合
6. 30	オリエンテーション	班編成 自己紹介 用具の説明
7. 26	実践練習	市内で地図と磁石の使い方を練習する。
9. 16	第1回たんけん	奥多摩の三頭山で、地図と磁石を使つての登山。
9. 24	第1回たんけんまとめ	三頭山の地形、植生などの印象を記録する。
10. 20	第2回たんけん打合せ	紅葉・落葉のメカニズムを学習する。
10. 28	第2回たんけん	三頭山で自分だけの「落葉図鑑」を作る。
12. 24	クリスマスパーティー	パーティーをかねて、今までのスライドなどを見る。
1. 19	第3回たんけん打合せ	冬の二次林の様子とその成立についての学習。
1. 27	第3回たんけん	雪のある二次林を見たり、野鳥を観察する。
2. 16	次回ハイキング打合せ	親子そろってハイキングに行こうという計画を作る。
4. 6	ハイキング下見調査登山	奥多摩の御前山へ親子ハイキングの下調べ登山。
4. 12	ハイキング用資料作成	子どもたちによる資料作り。

夏休み自然教室

小学4年生から中学3年生までを対象とし、夏休みを利用して地域の自然の状態を基礎的な方法により調べる。

期 間 7月27日 午前9時30分から12時まで 全10回

参加者 15人×10回＝150人

月 日	テ - マ	内 容
7. 27	オリエンテーション	班分け 自然教室の説明
8. 2	植物を見よう	近くの河原の植物の分布状況を調べる。
8. 8	昆虫をみつけるぞ	市内の林に住む昆虫を調べる。
8. 11	緑を調べよう	市内2ヶ所の公園の樹木の名前と数を調べ、比較する

月 日	テ - マ	内 容
8. 16	キャンプの打合せ	キャンプ(24時間調査)の打合せ
8. 17	キャンプ	} 福生の1日(24時間)をいろいろな角度から調べる。
8. 18	キャンプ	
8. 22	福生を見て歩こう	} 市内の緑の残っている様子を調べる。
8. 24	"	
8. 30	ま と め	反省とまとめ

夏休みマンガ教室

昨今の雑誌の中にマンガの占める割合は非常に大きく、マンガそのものが無視できなくなっている。小学4年生から大人までを対象とし、マンガの描き方からマンガの良し悪しの判断までできるように考えた。

期 間 8月12日 午前10時から12時まで 全3回

参加者 39人×3回 = 117人

月 日	テ - マ	内 容
8. 12	マンガの説明	マンガの意味とマンガができるまでの話し。
8. 13	マンガの描き方	具体的なマンガの書き方 — (1)
8. 15	"	" (2)

子ども会リーダー研修会(子ども)

子どもたちの手先がたいへん無器用になっていると言われているが、子どもたちが自主的に手先を使う機会を設け、あわせて、みんな指人形劇を実施した。

期 間 3月1日 午後2時から4時まで 全6回

参加者 15人×6回 = 90人

月 日	テ - マ	内 容	講 師
3. 1	オリエンテーション	指人形作りの説明と指人形の頭作り	原 島 サブロー

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 8	指 人 形 作 り	油ねん土により指人形の頭作り	原 島 サブロー
3. 15	〃	ねん土の頭へ紙をはる	〃
3. 22	〃	中のねん土を取りのぞき、紙だけの頭にする	〃
3. 29	〃	紙だけの頭に色を塗る	〃
4. 5	〃	各人形の服作り	〃

この研修会の終了後引き続き自主的な活動が続け、この夏をめどに「人形劇」を開くようになっている。

わんぱく教室（子ども会リーダー研修会）（松林分館）

子ども会運営の基礎的知識を身につける、子ども会運営の初歩的知識の中味として、

- ① 遊ぶことの楽しさを知っていること
- ② 仲間に働きかける力や知恵があること
- ③ 自分たちで一つのことを計画し、なし得る力をもち、その自分たちの体験を仲間に伝える力をもつこと

以上3つの初歩的中味を具体的な活動を通して育てる。

プログラム 全 12 回 参 加 者 40 人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 30	オリエンテーション。これからのプログラムについて説明、班分け、参加者生活実態調査		担 当 職 員
7. 7	楽しくゲームを覚えよう。ゲームのいろいろ、ゲーム指導の方法、		〃
7. 14	〃	〃	〃
7. 21	話しあい、会議の持ち方、話しあいの方法と記録、司会等のやり方		北 村 実
7. 28	自然の中で楽しい1泊をすごそう。キャンプの計画を作ろう		担 当 職 員
8. 3	班でキャンプ計画を作ろう		〃
8. 6	手打ちうどんをつくろう		〃

月 日	テ ー マ (内 容)	講 師
8. 10	地図をたよりに歩こう。オリエテーリングの実際	担 当 職 員
8. 13	班で班旗を作ろう。キャンプのしおりを印刷しよう	〃
8. 18	キャンプ打ち合わせと準備	〃
8. 20	奥多摩越沢バットレス。キャンプ場でキャンプ実習	〃
8. 21	〃 〃	〃

青空教室 地域を調べてみよう(松林分館)

子どもたち、みずからの力で、地域の歴史や、問題を考える。共同で調査し、事実を調べていく力を身につけ、フィールドの簡単な調査方法と、そのまとめ方を学ぶ。フィールドに出ることを通して、古来や地域の大人にかかわりをつくっていく。

プログラム 全 6 回 参 加 者 10 人

月 日	テ ー マ (内 容)	講 師
7. 26	オリエンテーション。どんな調査をしたいかレポート	田 村 光 男 (国 立 3 中 教 諭)
8. 2	調査項目の作成	〃
8. 9	〃	〃
8. 16	調査、フィールドに出る。福生砂線のあとをたどる。聞きとり	〃
8. 23	〃 〃	〃
8. 25	まとめをつくろう	〃

冬の子ども教室 I (1 ~ 3 年生) (松林分館)

地域に異年齢の遊び集団の形成と、遊び、特に集団で遊ぶことの楽しさを知らせること。ゲームや、簡単な手づくりおもちゃなどの技術と、それを使つての遊び方を身につける。

プログラム 全 5 回 参 加 者 37 人

月 日	テ ー マ (内 容)	講 師
1. 30	ゲームで楽しもう。班編成。班役割と分担の決定。ゲーム	担 当 職 員

月 日	テ - マ (内 容)	講 師
2. 6	ゲームで楽しもう。ゲームの指導	担 当 職 員
2. 20	わりばし鉄ぼうを作ろう	〃
2. 27	自分でたこを作ろう	〃
3. 5	みんなでたこをあげて遊ぼう	〃

冬の子ども教室 II (4～6年生) (松林分館)

1960年代後半から「鉛筆 削れない」「ナイフが使えない」「ひもが結べない」ということで代表された、子どもの手労働の衰退は、今日ますますひどくなってきている。それは、単に手が巧みに使えないということにとどまらず、手の巧みさが、人間の発達に大きくかかわり、それが衰退することは、1つの発達のゆがみをもたらしていると考えられる。また手労働でつくり出された文化は、その巧みさを伝える力で、1つの文化をつくっていた。その文化が崩壊しつつある今日、子どもに自分の手や、からだを存分に使って遊び、働く経験をもたせる。

プログラム 全 5 回 参 加 者 10 人

月 日	テ - マ (内 容)	講 師
1. 26	みんなであそぼう ゲーム指導	担 当 職 員
2. 9	手づくりたこを作ろう	〃
2. 16	〃	〃
2. 23	〃	〃
2. 24	追せきハイキング	〃

子ども科学教室 (松林分館)

かつて、子どもたちの科学的認識は、自然を通してかなり培われていた。しかし、今日子どもたちが、遊び文化を通して、自然にかかわりあうかは急速に失なった。代わりに断片的知識としての「科学」がふえてきた。ここでは、子どもたちに、生活の中の科学や法則性を楽しい科学遊びの中で育てる。

プログラム

全 5 回 参 加 者 12人

月 日	テ - マ (内 容)	講 師
3. 26	オリエンテーション。これからの学習のすすめ方	
3. 27	やさしいラジオ。手づくりラジオをつくろう	斉藤 明・神蔵 誠 (中学生指導者グループ)
3. 28	” ”	
3. 29	電気であそぼう。電気の性質は実験でたしかめよう	掛川悦子(薬 剤 師)
4. 1	博物館へ行こう。市立郷土資料室	

子どもサバイバル教室(松林分館)

便利すぎる現代の中で、工夫することを忘れた子供達に、仲間づくりから始め、共同作業により、生きるための知恵を身につけていく講座である。

月 日	テ - マ	内 容	場 所
6. 27	ゲームで友達をつくろう	オリエンテーション、室内ゲーム	松 林 分 館
7. 4	アドベンチャー・ゲーム	追跡サインゲーム、他	武蔵野台公園
7. 11	水をつくろう	ビニールシートで水をつくる	松 林 分 館
7. 18	火・連絡	サバイバル・マッチ、手旗信号	松 林 分 館
7. 25	測 る	体のものさし、他	松 林 分 館
8. 1	むすびの技術をマスターしよう	むすびのいろいろ	武蔵野台公園
8. 8	デイ・キャンプ	穴を掘って蒸し焼き料理	柳 山 公 園

期 間 6月27日～8月8日 午後2時～4時 全7回

会 場 松林分館および野外

参加者 30人×7回 = 210人

伝承あそび教室(松林分館)

素朴で、あたたかみのある伝承あそびにふれ、手作業をとおして、手仕事への愛情、物を作り出すよろこびを伝える。

月 日	テ - マ	内 容	場 所
8. 22	工作あそび	糸巻きブルドーザー	松 林 分 館
8. 23	草・木のあそび	ささ舟、松葉のおすもうさん	〃
8. 24	紙のあそび	吹き矢、竹鉄砲	〃
8. 25	工作あそび	まわり燈籠	〃

期 間 8月22日～8月25日 午後2時～4時 全4回

会 場 松林分館

参加者 11人×4回＝44人

親子で作ろう伝統玩具（はりこ）（松林分館）

できあいの物に埋もれ、創作のよろこびを忘れた子供達が、作業を通して自由な創意、たくみな工夫を育むために実施した。

月 日	テ - マ	内 容	講 師	場 所
3. 24	はりこの話	デザイン構想、鑑賞	木住野利明氏 伝統玩具 製作家	松 林 分 館
3. 27	型作り	型作り		〃
3. 29	紙はり	紙はり、型ぬき		〃
3. 31	色つけ	色つけ、鑑賞会		〃

期 間 3月24日～3月31日 午後2時～4時 全4回

会 場 松林分館

参加者 35人×4回＝140人

(2) 青 年

青年学級（英会話）

職場など実生活で必要度の高まっている英会話を、仲間づくりの中で協同しながら身につけていった。クラス運営やプログラム編成は、受講者の自主的なものとして実施した。

1. 期 間 昭和54年5月27日～昭和55年3月30日

毎週日曜日 午後7時30分～午後9時30分

全40回

2. 会 場 福生市公民館 第5集会室
3. 講 師 宮本長治氏（青年学級専属講師）
4. 参 加 者 33人×40回＝1,320人
5. 教 材 アメリカ口語教本“入門用”
6. 自主活動 バーベキュー、クリスマスパーティー

昭和55年 成人式及び成人のつどい

成人した人達を祝い励ますとともに、成人式及び成人のつどいをひとつの画期として、人生の意味を再確認する機会として実施した。

1. 主 催

福生市・福生市教育委員会・成人のつどい実行委員会

2. 開催日・会場

昭和55年1月15日（火）

福生市民会館大ホール、第4・5集会室

3. 内 容

1) 成人式典 午前10:30～11:00 大ホール

- (1) 開 式
- (2) 主催者あいさつ（市長、教育委員長）
- (3) 来賓祝辞（市議会議長）
- (4) 閉 式

2) 成人のつどい 午前11:10～午後1:30 第4・5集会室

- (1) 実行委員長挨拶
- (2) フォークソング
- (3) フォークダンスとゲーム
- (4) 各種模擬店

4. 対 象 者

昭和34年4月2日から昭和35年4月1日までに出生した567人

5. 参 加 者

成人式典 280人

成人のつどい 50人

6. 成人のつどい実行委員会

「成人のつどい」は、1) 成人者自身が成人することの意味を再確認・再認識し、それ

を皆のものにする。2) 成人のつどいを自分達の手で作り出すことによって、共通の活動への参加、連帯性の生まれる契機とする。3) 地域社会の活動への参加により、地域を考える契機とする。を目的とし、新成人者全員に郵送した呼びかけで、参加した5名の成人者で実行委員会を結成した。

準 備 事 項				準 備 事 項			
11月28日 (水)	第 1 回	成 実 委	成人委員会 の 意 義 と 実 行 成人のつどい	12月27日 (水)	第 9 回	成 実 委	意義と企画 ↓
12月 1 日 (土)	第 2 回	〃		1 月 5 日 (土)	第 10 回	〃	
5 日 (水)	第 3 回	〃		6 日 (日)	第 11 回	〃	↓ 備 活 動 向 け 詳 細 準 ↓
8 日 (土)	第 4 回	〃		9 日 (水)	第 12 回	〃	
12 日 (水)	第 5 回	〃		12 日 (土)	第 13 回	〃	
15 日 (土)	第 6 回	〃		13 日 (日)	第 14 回	〃	
19 日 (水)	第 7 回	〃		14 日 (月)	第 15 回	〃	
22 日 (土)	第 8 回	〃		15 日 (火)	成人式及び成人のつどい当日		

若い市民の講座

(A) レクリエーション講習会

職場や地域で活かし、豊かな人間関係をつくりだせるよう次のように実施した。

回	月日	内 容	講 師
1	3/1	アイスブレーキング(初めまして)	井 上 忠 志 氏 (福生レクリエーション サークル)
2	3/8	リーダーゲーム	
3	3/15	ペアゲーム・リングゲーム	
4	3/22	グループ対抗ゲーム	
5	3/29	フォークダンス・レクダンス	
6	4/5	ゲーム創作・ゲームの展開	
7	4/12	つどいのもち方	

期 間 3月1日(土) 午後7時00分～9時00分 から4月12日 全7回

会 場 福生市公民館 第5集会室

参加者 14人×7回 = 98人

共 催 福生市青年団体連絡協議会

(B) 若い市民の講座

初心者のための吹奏楽講習会

金管楽器や木管楽器の奏法を習得するために、次のように実現した。

回	月日	テ - マ	内 容
1	4/13	オリエンテーション	自己紹介他
2	4/20	楽器の扱い方	楽器の取り扱い説明
3	4/27	奏 法 1	呼吸の方法・マウスピースのあて方
4	5/11	奏 法 2	音出し ロングトーン
5	5/18	奏 法 3	音出し ロングトーン
6	5/25	奏 法 4	簡単な譜面の読み方他
7	6/1	奏 法 5	4分音符・2分音符の練習
8	6/8	奏 法 6	8分音符・タンギングの練習
9	6/15	奏 法 7	簡単な合奏
10	6/22	奏 法 8	簡単な合奏

期 間 昭和55年4月13日(日) 午前10:00～12:00 から 6月22日まで 全10回

会 場 福生市公民館

講 師 西田寿喜氏(昭和音楽短期大学学生)

福生吹奏楽愛好会

参加者 15人×10回=150人

共 催 福生市青年団体連絡協議会

青年団体宿泊研修会

個々人が学習・文化活動を生活化することの意義を掴み、次年度、更に充実した活動を展開し得るようにするため、次のように実施した。

3月22日

PM8	9	0	AM8	9	12	PM1
八時より受付 夕食	各サークル年間活動 の報告	消 燈	起 床	朝 食	話 し あ い	昼 食 解 散

1. 日 時 3月22日(土)～23日(日)
2. 会 場 都立五日市青年の家
3. 参加者 3人
4. 主 催 福生市公民館・青年団体連絡協議会

若い人たちのための陶芸教室(松林分館)

「手づくりの味」陶芸作品をとおして、自由に何でも語りあえる雰囲気の中での仲間づくり。

月 日	テ - マ	内 容	講 師	場 所
2/8	陶芸の基礎	土練り	柴田 繁氏 (陶芸家)	松林分館
2/15	成 形	製作		"
2/22	装 飾	けずり		"
2/29	釉薬の調合	釉薬の調合		"
3/8	素焼き	素焼き		公民館
3/14	釉かけ	釉かけ		松林分館
3/20	本焼き(第一班)	本焼き		公民館
3/23	窯出し(第一班) 本焼き(第二班)	窯出し、本焼き		"
3/24	窯出し(第二班)	窯出し		"
3/28	鑑賞会	鑑賞会、反省会		松林分館

期 間 2月8日～3月28 午後7時～9時半 全10回

会 場 松林分館および公民館

参加者 14人×10回 = 140人

(3) 婦 人

婦人学級

都市化や核家族化が進行している現在、婦人にとっての生活環境は大きく変化してきている。かつて幾人もの子供を育て、地域のつながりの中に生きて来た婦人に比べ、現在は、子供の数は減少し、子育て期間が短縮し、平均寿命も伸びて来ている。そうした中で、どのように能力を伸ばし、ひとりの人間として主体的に生き、人と人との新しい共同、協力関係を形成するかは、

重要な課題となって来ている。

そこで、「子供の独立以後の私の生き方」と題して、次のとおり婦人学級を実施した。

A コース（前期プログラム）

回	月日	主 題	内 容	備 考
1	6/6	オリエンテーション	自己紹介・プログラム案の検討	話し合い 助言 倉橋良子氏 (小金井老問題)
2	6/13	子供の独立への対応 か ら 自らの生き方へ	私の子供の独立への対応	問題提起と話し合い 同 上
3	6/20		そして 40 代の私の生き方	” ” 同 上
4	6/27		“今私は…!” 私達の現況について	話 し 合 い 同 上
5	7/4	健 康	更年期の変調とそれを乗り切るために	福生保健所 保 健 婦
6	7/11	年 金	老後の生活基盤を考える。	森川泰生氏(年金研究者)
7	7/18	老 後 問 題 と は	来たるべき老後とコミュニティーケア	冷水 豊氏(都老人問題 総合研)
8	7/25	ま と め	これまでの整理と今後の学習	話 し 合 い

日 時 6 月 6 日(水) 午前10時～正午 全8回

会 場 福生市公民館

参加者 15 人×8回 = 120 人

B コース（後期プログラム）

回	月日	内 容		備 考
1	10/17	いかに私達母親が子 離れしていくか	「子供の独立心を培うために」 欧米の家族と子ども	講師 鷺津美栄子氏 (生活評論家)
2	10/24		子をもつ母として、子供の精神的自立 にむけての鍛えとは…!	話 し 合 い
3	10/31	・私の今を生きる迷 い	欧米婦人の姿とたくましいおばあさん	講師 鷺津美栄子氏
4	11/14	・30代・40代の私達 の老後	今から充実して生きる糸口を見出すた めに	話 し 合 い
5	11/21	家族の変化(核家族化)や私達の環境の変化の中で生きもの としての人間の立場から、家庭を見直す。		宮岡一雄氏 (明治大学教授)
6	12/12	親の役割と現在の子供の教育(人と人とが交わる生活の哲学 とは)		話 し 合 い
7	1/29	新年会 — メンバー間のつながりを深めるため —		メンバー宅にて
8	3/5	「地域婦人のつどい」反省と今後の学習について		話 し 合 い

回	年月	内 容	備 考
9	3/26	— コミュニティー・ケア前提に — 老後の基盤と家庭の人間関係、そして人の生き死を大切にす る家庭教育	冷水豊氏 (都老人問題) 総合研

※ なお、当婦人学級での主題が、別記「地域婦人のつどい」のメインテーマに持ち込まれたため、12月から3月までの学級は断続的なものとなりました。

日 時 10月17日(水) 午前10時～正午 全9回

会 場 福生市公民館

参 加 25人×9回 = 225人

日米親善・文化交流(英会話教室)

昭和50年度から、横田基地将校婦人クラブの働きかけにより、日米親善の一環として、婦人の文化交流を実施し得ることを目的に、英会話教室を実施し、本年はその5年目となる。

文化交流を軸に、アメリカ社会の生活様式及びアメリカ婦人の生活と社会性などを学び、同時に英会話習得の機会として開催するものとする。

また、本年度は、福生市民である婦人の手による文化交流事業が実施できるよう、一方の交流主体としての体勢を形成するものとする。

1. 期 間 昭和54年9月6日(木)より、昭和55年5月29日まで(アメリカの学期)
2. 曜 時 毎週木曜日 午前10時から12時と、午後1時から3時
3. クラス 午前クラスA・B・Cクラス 午後クラスD・E・Fクラス
4. 会 場 福生市公民館(各室)
5. 指導者 各クラスともアメリカ婦人ベアー方式にて指導
6. 将校婦人クラブ世話役 Mrs Michiko Shoop
7. 教 材 Basic English Couvesation Drill

参加 1クラス18人×6クラス×40回=4,320人

文化交流クラスリーダー連絡会

交流内容が豊かなふくらみとなっていくため、一方の交流主体としての体勢を形成し、来年度以降に、自主的・主体的な交流事業を実施し得るよう次のように実施した。

- ① 日常のクラス運営及び学習方法の検討・研究
- ② アメリカ婦人のコミュニティーグループとしての組織・活動の研究
- ③ 交流事業の企画・実施(本年度は、酒造元の見学視察の実施)

- ④ 同じ、市民としての婦人グループへの交流と連繋
- ⑤ その他各種日常生活に係わる生活の知恵授々について、交流の可能性検討。

参加 12人×12回（月例）＝ 144 人

仮称 福生市婦人グループ連絡会（地域婦人のつどい実行委員会）

都市化・核家族化等、地域の急激な変化は、婦人の生活を大きく変えることとなった。そうした中で、地域婦人活動も一定の変化を余儀なくされていると言えよう。こうした時、婦人会の解散以後も、人間関係存続の地域婦人集団・新生活運動に関連する生活学校及びその他のグループと、現在公民館を活動の場に、各種グループの誕生による活動が存在している。

そこで、新しい婦人の地域における共同・協力関係を形成するために、“婦人グループ連絡会”を形成する準備の集まりを設けるとともに、最初の共同事業としての“地域婦人のつどい”取り組みにむけて、次のように実施した。

- ① この集まりの主旨について考える。
- ② 各グループリーダーの出逢いと交流。
- ③ “地域婦人のつどい”企画・運営・実施。
- ④ “地域婦人のつどい”記録文集の作成。
- ⑤ これからの地域での、新しい婦人のつながり形成に関する検討。

“地域婦人のつどい実行委員会”

日 時 昭和54年10月1日（月） 午前10時～正午 全10回

会 場 福生市公民館

参 加 30 人× 10 回 ＝ 300 人

※ なお、3月以降は、仮称“福生市婦人グループ連絡会”として月例にて会合を設け、今後の新しい地域婦人のつながりと学習グループ活動の広がりむけて、活動を始めようとしている。

婦人文章教室（松林分館）

毎日の生活に押し流されている婦人が、書くことによって、自分と自分の生活を見つめ直すために実施した。

月日	テ - マ	内 容	講 師	場 所
10/5	文章を書くというのはどういうことか	文章を書くことの意味		松 林 分 館

月日	テ　　マ	内　　　容	講　　師	場　　所
10/12	文章をどう書くか	書く経験	平島美也子氏 (多摩のおんな 著者)	松林分館
10/19	〃	題材限定		〃
10/24	〃	読み手意識		〃
11/2	〃	材料選び		〃
11/9	文章をどう処理するか	下書き・推敲		〃

期 間 10月5日～11月9日 午前10時～正午 全6回

会 場 松林分館

参加者 20人×6回＝120人

保育懇談会

幼児の成長・発達を異年令集団の中で促すことへの研究と、それにとりあう保育室のあり方に対する検討・研究。(助言者 町田 薫氏・奥田泰弘氏)

参加者 (月例)12回×20人＝240人

会 場 福生市公民館

期 間 月例 通年12回

(4) 成人・一般

市民文化教室

1. 主 催 福生市公民館・福生市文化連盟
2. 目 的 多くの市民に趣味や実技、教養に関する初歩的学習の機会を提供することによって、市民の文化諸活動への参加を促し、市民文化活動の拡大に役立てる。

(生活への還元・グループへの参加・新しいグループの創造)

- (1) 文化連盟 連盟の持つ力を、市民に提供することによって、市民文化形成のリーダーの役割を果たすと同時に、組織の拡大(参加者や活動面)に役立てる。
- (2) 公 民 館 連盟の力を伸ばすとともに、市民の学習の場を拡大していく。

昭和54年度 市民文化教室実施状況

文化連盟共催(10)

コース	開講期間	内 容	指 導 者	参加 人員
油 絵	5月25日(金) から全10回	静物・風景・デッサン(石膏)	成 川 治	21
詩 吟	8月6日(月) 〃	大薫・発声・吟じ方	井上吼征、広瀬鳳鵬、青柳心寿、 田辺嘉洲、綿貫吼石	6
俳 句	8月24日(金) 〃	現代俳句のやさしい鑑賞と作り 方	霧の音俳句会 来住野 臥 丘	17
民 踊	8月8日(水) 〃	民謡踊り(大東京音頭・日本花 見踊り)	日本舞踊連盟 東 山 夢 福 東 山 夢 寿々世	18
民 謡	8月22日(水) 〃	正しい発声法(斉太郎節・よさ こい節)	弥 尾 地 会 藤 本 弥尾地	20
社交ダンス	9月1日(土) 〃	基本ステップ・リズムのとり方	社交ダンス 小 宮 吉 春 愛 好 会	66
茶 道	9月6日(木) 〃	久田流	久 田 流 杉 浦 晃 陽	8
編物手芸	9月20日(木) 〃	やさしい小物とベスト	編物手芸会 堂 田 きよ子	50
日本人形	8月24日(金) 〃	木目込み人形(童女・つづみ・ 古城)	酒井人形教室 酒 井 虹 晨	12
書 道	10月12日(金) 〃	漢字・平かな・基本の運筆とそ の知識	内 田 閑 堂	30

公民館主管(3)

コース	開講期間	内 容	指 導 者	参加 人員
木 彫	6月28日(木) から全15回	研きこ線彫り・レリーフ・立体	合 津 眞 治	16
スクリーン 印 刷	6月28日(木) から全10回	染料による布印刷	伴 内 伊三郎	10
8 ミ リ 映画制作	8月2日(木) から全13回	「ふっさ むかし、いま」 (サウンド10分)制作	佐々木 堅 次	8

市民大学講座(経済)

高度化した生産力の中で、低成長期にある現在、住むという人間の基本行為を見直しながら、経済状況への関連について考えてみた。この場合、私的空間としての住まいの機能から暮らしやすい都市空間をイメージする機会をもち、そのための条件としての経済(財政・金融等)の関連性について考えてみた。

(プ ロ グ ラ ム)

会 場 福生市公民館

回	月日	内 容	備 考
1	7/27	私的空間と都市空間 と経済の関係	(これからの進め方について) 都市に係わる経済の関係 殿村晋一氏(専 大 教 授)
2	8/3		住宅と都市空間について — 欧米都市の見てある記から — 久嶋 宏氏(一 級 建 築 士)
3	8/10	“経済の目から” 考える	土地の実勢・宅地開発について 上條孝夫氏(不 動 産 研 究)
4	8/17		税関係紹介と経済政策への関連 持田 力氏(税 研 究 者)
5	8/24		景気政策にむけての財政・金融 佐羽菊次氏(都立川短大教授)
6	8/31	都市問題と住宅を経 済動向から考える	都市再開発と土地・住宅問題 佐藤哲郎氏(“ 助教授)
7	9/7		経済動向と都市再開発 殿村晋一氏(専 修 大 教 授)

期 間 7月27日(金)午後7:30～9:30 全7回

参 加 12人×7回 = 84人

市民大学講座(音楽)

音楽は、日常生活の中で切離せなくなっているが、音楽に対する姿勢はあくまで受け身である。そこで自己を表現する媒体として音楽を考え、“音楽を作る”行為として簡単な作曲ができるよう次のように市民大学講座を実施した。

回 数	内 容	講 師
1 ～ 5 回	基礎理論と簡単な作曲法	吉 田 稔 氏 (自衛隊音楽学校教授)
6 ～ 10 回	課題による簡単な作曲法	
11 ～ 15 回	市制10周年により募集のあった「市の歌」の制作	
16 ～ 17 回	反省会及び合評会	

期 間 昭和54年11月17日(土)～昭和55年3月22日(土) 全17回
午後7時30分～9時30分

会 場 福生市公民館 音楽室

参加者 10人×17回 = 170人

子ども会リーダー研修会（大人）

子どもの日常の生活に現われている種々の問題をマスコミが取り上げているが、その解決の手段が“地域子ども会”ではないかと思われる。そこで子ども会の役員や、子ども会活動に興味がある人に学習の機会として実施した。

期 間 2月22日 午前10時から12時まで 全5回

参加者 22人×5回 = 110人

月 日	テ - マ	内 容	講 師
2. 22	子どもの状況と親の対応	子どもの現状と親の役割を明らかにする	野 沢 久 人
2. 29	子どもの生活時間	子どもの生活時間・空間調査から	木 全 力 夫
3. 7	子ども会活動から	子ども会活動の実践報告から	比 嘉 祐 典
3. 14	子どもの成長と親の役割	子どもの成長と親の果たす役割とは何か	宮 岡 一 雄
3. 28	まとめ	参加者の話し合いと講師からの話し	服 部 照 親

子ども会リーダー研修会 =子どもの遊びと生活を考える講座=

地域子ども会役員や子ども会にかかわる成人者のために、子どもの現状と、生き生きとした子ども会活動をすすめていくための視点と実技上必要な知識を身につけるために実施した。

プログラム 全 5 回 参 加 者 12 人

月 日	テ - マ	内 容	講 師
7. 5	地域の子どもたちはいま	子どもの現状	東 隆 寿 氏
7. 12	子どもの発達とあそび	子どもの発達と遊びの関係	南 里 悦 史 氏
7. 16	ゲーム指導のこつ	ゲーム指導の実際	二本松はじめ氏
7. 19	地域子ども会の指導をめぐって	子ども会の指導とは何か、子どもが主人公に	溝 渕 幸 太 郎 氏
7. 21 22	キャンプingの実際	野外活動の実際	

家庭教育学級 =乳幼児期の成長・発達を考える講座=

乳幼児を抱えた母親は、今日、さまざまな問題を抱えている。その第1は母と子だけの閉そくされた家庭の中で生活していることである。第2に、子育て期に必要な生活の知恵としての育児する力がたいへん衰えていることである。第3に、何よりも、人と人との関係をつくっていく力

や、そうした機会がないということだろう。これが今日の乳幼児を抱えた若い母親たちをめぐる大きな問題状況である。「保育室」の母親たちの調査によると、85%が育児ノイローゼにかかった経験をもつという。こうした若い母親たちにとって「今」学習する機会の提供が望まれる。家庭教育学級はそのための場として開設された。

本年は11月から3回の準備会の討論で次のように実施した。

プログラム 全 9 回 参加者 19 人

月 日	テ ー マ	備 考
11. 21	準備会 いまかかえる問題Ⅰ	
11. 28	“ いまかかえる問題Ⅱ	
12. 5	“ プログラム原案づくり	
2. 18	いま乳幼児の生活を見なおすとⅠ	中村ちよ氏（青梅第2ゆりかご保育園長）
2. 25	乳幼児の心と体が育って行く道すじはⅠ	茂木俊彦氏（立 正 大 学 助 教 授）
3. 3	いま幼児の生活を見なおすとⅡ	細谷勇太郎氏（コロリン村幼稚園長）
3. 10	幼児の心と体が育って行く道すじはⅡ	茂木俊彦氏（立 正 大 学 助 教 授）
3. 17	子どもの生活と文化、＝幼児とテレビ＝	竹内布衣子氏（F C T）
3. 24	子どもの生活と文化 幼児と絵本をめぐって	福地トシ氏（井 ノ 頭 保 育 園 長）

学校教育を考える ―子どもの生活と学校を考える講座―

子どもの生活実態と、豊かに子どもが育つ場としての地域や学校の問題を学校教育を通して考えた。

プログラム 全 6 回 参加者 8人

月 日	テ ー マ	備 考
3. 1	子どもの生活実態を話しあおう	話 し あ い
3. 8	“	“
3. 15	子どもが生き生きする学校は	白井 慎氏（法 大 教 授）

月 日	テ - マ	備 考
3. 29	学校の現場からみた子どもたち	小 学 校 教 諭
4. 5	”	”
4. 12	母親のできる教育運動	福 長 笑 子 氏 他

郷土史専門講座（市民大学歴史コース）

市民がみずからの力で地域の歴史を発掘し、再構成する力をもつことを目的として、郷土史に関する論文を提出しながら、ゼミ形式で実施した。

プログラム 全 8 回 参 加 者 12人

月 日	テ - マ	レ ポ - タ -
5. 12	講座のためのオリエンテーション	
5. 18	発表論文予定者による簡単なコメント	
5. 26	発表、玉川上水熊川分水について	峰 岸 秀 雄 氏
6. 2	” 真福寺と熊野修験半沢覚円坊について	高 崎 勇 作 氏
6. 9	” 日野宿組合の編成について	立 川 愛 雄 氏
6. 12	” 技術面から見た玉川上水工事	岡 村 満 寿 氏
6. 23	” 福生地名考	森 田 潤 三 氏
7. 7	” 長塩領宗門人別帳（文政7年）からみた熊川村	篠 原 良 輔 氏

講座万葉集を読む（市民大学文学コース）

古典、万葉集を読むことを通して、当時の人々の生活や、ものの考え方などを明らかにし、あわせて、日本文学の典型を学ぶため実施した。

プログラム 全 9 回 参 加 者 32人

月 日	テ - マ	講 師
12. 6	準備会 万葉集のどこを読むか	

月 日	テ ー マ	講 師
1 3	準備会 万葉集のどこを読むか	
2 0	プログラム原案検討	
1. 31	古代の文学、万葉集をめぐって	高野正美氏（都立立川短大助教授）
2. 7	額田王とその周辺 I	〃
2. 14	額田王とその周辺 II	〃
2. 21	人麻呂の時代 I	〃
2. 22	人麻呂の時代 II	〃
3. 6	人麻呂の時代 III	〃

自然観察会

私たちの住む福生を、主に自然の側面から観察する。

自然の生物には人間にとって観察しやすい、理解しやすい時季があり、あわせて多方面の生物を継続的に観察する必要がある。今年度は次の計画により実施した。

期 間 6月10日から翌年3月20日まで 参加者320人（各観察会の合計）

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 10	植 物 観 察 会	春から初夏にかけての草花を市内の公園で観察する	宮 岡 一 雄 氏
7. 8	水生昆虫観察会	身近かな多摩川の水の状態を知る	田 中 和 明 氏
10. 21	植 物 観 察 会	秋の植物を公園と河原を中心に観察する	宮 岡 一 雄 氏
11. 18	野 鳥 観 察 会	戻って来た『冬鳥』の観察会（雨天中止）	
2. 14	〃	柳山公園付近のカモ類を中心に観察する	
2. 17	〃	草花丘陵の野鳥を観察する	岡 田 紀 夫 氏
3. 2	〃	玉川上水沿いの林に住む鳥を中心に観察する	栗 原 仁 氏
3. 9	〃	熊川南公園付近の野鳥（主にカモ類）の観察	畑 俊 弘 氏
3. 16	〃	滝山丘陵の野鳥を観察する	
3. 20	植 物 観 察 会	冬から春先の草花を市内公園、河原で観察する	宮 岡 一 雄 氏

日曜市民大学講座（市民の社会教育を考える）

現代は、日常生活で学ぶ必要と機会が広がりつつある時代である。そこで、あらためて「生活の中で学ぶこと」、そして「地域で、人と人とが育くみ合うつながり」にむけて、市民の学習・文化・教育の場となる社会教育「公民館」のこれからを考えることとした。

福生に、公民館が開館して3年、そして（分館2含む）基本的整備が完了する。

今後、この場を活用し、多くの市民にとって自己教育の機会として、また、それが市民全体の地域づくり（手ごたえある生活）につながる方向にむけて、次のとおり実施した。

プログラム

回	月 日	テ - マ	内 容	講 師
1	3. 16	市民が主体の社会教育とは	都市公民館の現状と課題 福生に期待する公民館態勢	小 林 文 人 氏 (東京学芸大学教授)
2	3. 23	公民館とは	公民館制度（戦後・現在の歴史） 公民館像の研究について	奥 田 泰 弘 氏 (中央大学助教授)
3	3. 30	生活・地域課題とは	（生きものとしての人間の立場から） 教育の視点から、家庭と地域の在り方について	宮 岡 一 雄 氏 (明 治 大 学 教 授)
4	4. 6	公民館のこれからの教育活動	公的な条件整備（学習の援助態勢）の実態とこれからの可能性に関する一考	野 沢 公 民 館 長
5	4. 13	まとめとこれから	公民館利用者のヨコのつながりとこれからの主体的学習	参加者の話しあい

期 間 昭和55年3月16日（日） 午後1：30～3：30 全5回

会 場 福生市公民館

参 加 15人×7回（2回はプロ準備会）＝105人

視聴覚リーダー研修会

視聴覚教育の拡充を目指し、16ミリ映写機操作講習会を次のように実施した。なお、昭和43年からはじめられたこの事業で修了証交付者は、累計402人となった。

1. 日程と内容

月日	時間	7	8	9	10
7月4日(水)	開講式 映写機の機講と操作			実技①	
5日(木)	実技②		実技③	実技④	
6日(金)	実技⑤		実技⑥	実技⑦	
7日(土)	映画フィルム・保守管理			教材・教具の利用 視聴覚教育	
	10	11	12	1	4
8日(日)	実施⑧	実技⑨		個別操作 閉講式	

2. 会場 福生市公民館視聴覚室

3. 講師 西野光芳氏(都立立川社会教育会館)他

4. 参加者 21人×5回 = 105人

5. 修了者による映画会の実施

8月12日(日)

9月9日(日)

10月14日(日)

リクエスト・サークル(音楽愛好者連絡会準備) 助言者 瀬川 武氏
(国立音大講師)

市民会館主催の音楽鑑賞事業へのリクエストに加えて、市民音楽活動への盛り上がり及び、地域的定着にむけての、交流・検討の場として実施した。

参加者 12人×12回 = 144人

会場 福生市公民館

期間 月例 通年12回

松林ホーム・シアター（松林分館 映画会）

上映日	上映作品	上映時間及び入場者
6月9日(土)	サンダカン八番娼館 望郷	午後7時 90人
7月29日(日)	二十四の瞳	午前10時・午後2時 2回 80人
8月29日(水)	象のハナ子	午後1時30分 58人
10月6日(土)	家族	午後3時・7時 2回 38人
1月26日(土)	長くつしたのピッピ	午後2時・4時30分 2回 190人
2月23日(土)	ゆかいなピエロとにげ出した六匹の熊	午後2時・3時30分 2回 250人
3月22日(土)	ピッピの新しい冒険	午後2時・4時 2回 150人
3月29日(土)	幸福の黄色いハンカチ	午後7時 54人

市制10周年記念 福生市民のつどい

○地域文化を考える市民のつどい

講演会 テーマ「地域文化と市民活動」

1. 日時 昭和55年2月18日(月) 午後7時～9時
2. 会場 福生市公民館
3. 講師 安藤頌太郎氏(評論家)
4. 参加者 60人

○きょうの料理のつどい

講演会 テーマ「日本の味と私の料理観」

1. 日時 昭和55年2月15日(金) 午前10時～11時30分
2. 会場 松林会館
3. 講師 阿部 なを氏(料理研究家)
4. 参加者 80人

○地域婦人のつどい

講演と分科会 テーマ「都市化・核家族化の中で」～婦人の生活とこれから～

1. 日 時 昭和55年2月20日(水) 午後1時～5時
2. 会 場 市民会館(小ホール)、公民館
3. 講 師 神田道子氏(東洋大学助教授)
4. 参加者 180人

(5) 市民会館主催事業

昭和54年度 市民会館主催事業

1. 目 的

会館は、市民の文化・芸術の拠点として、また豊かな人間性をはぐくむ場として、会館のもつ機能、設備を内容面で市民に還元してゆくことを目的としている。

その一環として市民会館主催事業は、市民によりよい鑑賞の機会を提供し、生活の潤い、いこい、また文化・芸術の創造の契機となるよう行なわれる。それは、市民が鑑賞者として、“すばらしいもの”を十分に検討し、それに対応するという相互のより高い調和を目的とする。

2. 今年度の目標

今年度は、定着化したオーケストラ公演、映画会に、文化庁子供芸術劇場、ポピュラーコンサート、落語を加え、幅広いジャンルからの企画により、多くの市民の参加を望んでいる。

また、主催事業の内容の充実とともに、催しを全市民に知ってもらうための宣伝活動の徹底を心がける。

(1) 市民名画劇場「サンダカン八番娼館“望郷”」

- ① 日 時 昭和54年6月9日(土) 午後2時 1回
- ② 会 場 福生市民会館 小ホール
- ③ 主催者 福生市民会館
- ④ 対 象 市民一般
- ⑤ 入場料 無料
- ⑥ 入場者 148名

(2) 市民名画劇場「ジョニーは戦場へ行った」

- ① 日 時 昭和54年8月18日(土) 午後2時・午後7時 2回
- ② 会 場 福生市民会館 小ホール
- ③ 主催者 福生市民会館
- ④ 対 象 市民一般
- ⑤ 入場料 無料
- ⑥ 入場者 95名(1回目47名・2回目48名)

(3) 市民名画劇場「羅生門」

- ① 日 時 昭和54年12月22日(土) 午後2時30分 1回
- ② 会 場 福生市民会館 小ホール
- ③ 主催者 福生市民会館
- ④ 対 象 市民一般
- ⑤ 入場料 無料
- ⑥ 入場者 75名

(4) 市民名画劇場「幸福の黄色いハンカチ」

- ① 日 時 昭和55年3月30日(日) 午前10時30分・午後2時 2回
- ② 会 場 福生市民会館 小ホール
- ③ 主催者 福生市民会館
- ④ 対 象 市民一般
- ⑤ 入場料 無料
- ⑥ 入場者 270名(1回目130名・2回目140名)

(5) 文化庁子ども芸術劇場「ブンナよ、木からおりてこい」

- ① 日 時 昭和54年8月8日(水) 午後1時
- ② 会 場 福生市民会館 大ホール
- ③ 主催者 文化庁、東京都教育委員会、福生市教育委員会
- ④ 対 象 小学校高学年～中学生
- ⑤ 入場料 無料
- ⑥ 入場者 875名
- ⑦ 公演団体 劇団・青年座

(6) 落語鑑賞会

- ① 日 時 昭和54年9月15日(土) 午後6時30分
- ② 会 場 福生市民会館 小ホール
- ③ 主催者 福生市民会館
- ④ 対 象 市民一般 近隣地区
- ⑤ 入場料 前売券300円 当日券450円
- ⑥ 入場者 171名
- ⑦ 出演者 柳家 𠂔治 古今亭 志ん太 入般亭 扇好
林家 時蔵 古今亭 朝太

(7) 森山良子コンサート

- ① 日 時 昭和54年12月15日(土) 午後7時
- ② 会 場 福生市民会館 大ホール
- ③ 主催者 福生市民会館
- ④ 対 象 市民一般、近隣地区
- ⑤ 入場料 指定券 1,800 円・自由券 1,500 円
- ⑥ 入場者 627 名
- ⑦ 出演者 森山 良子
- ⑧ 内 容 (曲目)この広い野原いっぱい、遠くへ行きたい、幸せのすきま、ソレアー
ド、恋人、歌ってよ夕陽の歌を、悲しみのピアノ、他

(8) ふっさスプリングコンサート「読売日本交響楽団」

- ① 日 時 昭和55年3月15日(土) 午後2時30分
- ② 会 場 福生市民会館 大ホール
- ③ 主催者 読売新聞社、福生市民会館
- ④ 対 象 市民一般、近隣地区
- ⑤ 入場料 指定券 A、2,000 円、B、1,800 円
- ⑥ 入場者 309 名
- ⑦ 演奏団体 読売日本交響楽団
- ⑧ 指 揮 エンリケ・ガルシア・アセンシオ
- ⑨ 内 容 ベルディー 歌劇「運命の力」序曲
チャイコフスキー バイオリン協奏曲 二長調
ショスタコービッチ 交響曲第5番 二短調